

南丹市となって初めての水泳大会を、改修して今夏からきれいになった南丹市八木海洋センターの屋内プールで開催しました（市教育委員会・市体育協会八木支部共催）。

9月初旬ながら、残暑厳しい水泳日和となったこの日、夏休みに海やプールで目いっぱい泳いだ子どもたち、体力作りや健康のために日ごろから水泳をされている大人の方など、小学2年生から67歳の方まで32人が自己の記録に挑戦しました。プールサイドからは「もうちょっとでゴールやで」「お父さん、がんばって!」などと声援が飛び交い、熱気に包まれました。



▲ゴールに手が届くまで、かいっぱい泳ぐ出場者

## 「水しぶき上げて夏の締めくくり」

（9 / 6 第1回南丹市水泳大会



かがり火が揺らめく美山のかやぶき民家を背景に、<sup>たきぎ</sup>新能「第8回能楽の夕べ」が開催されました。

開演前に行われた「能楽子ども体験教室」では、参加を希望した14人の子どもたちが立命館大学能楽部の学生らに手ほどきを受けました。あいさつに始まり、シテ（舞い手）と地謡（うたい手）に分かれて、扇の持ち方や歩き方、発声方法を教わる子どもたち。おぼつかないすり足も、稽古を繰り返すうちに少しずつ様になっていきました。

午後7時、およそ400人の観客が待ちわびる中、狂言「魚説教」（茂山あきら、丸石やすし出演）、能「杜若」（<sup>うおせつきょう</sup>青木道喜、<sup>かきつばた</sup>村山弘出演）の公演が始まりました。過去2年は雨のため屋内ホールでの開催でしたが、今年は中秋の名月が趣を深める3年ぶりの野外公演となり、暗闇に浮かび上がる幽玄な舞台が観客を魅了しました。

## 「気分は豆能楽師、和の風情を堪能」

（9 / 14 能楽の夕べ・能楽子ども体験教室

## 「私たちにできること 楽しいエコ始めよう」

（10 / 5 ECOレンジャーまつり



◀使用済みてんぷら油で走るレーシングカート

親子で楽しみながら環境問題を考える市民グループ「ECOレンジャー」が、氷室の郷で『地球温暖化を防ぐために私たちが出来ることは?』をテーマにイベントを開催。難しくなく、自然に生まれる感情で環境を考えるきっかけとなるように、廃油キャンドル作りや竹あかりのワークショップ、アザラシの赤ちゃんを撮り続ける写真家の講演会、地元で環境活動に取り組む方々による座談会など盛りだくさんの内容を企画。小雨模様でしたが、親子連れの楽しむ姿がありました。



▲開演前の体験教室で手ほどきを受ける「豆能楽師」たち